

経営比較分析表（令和6年度決算）

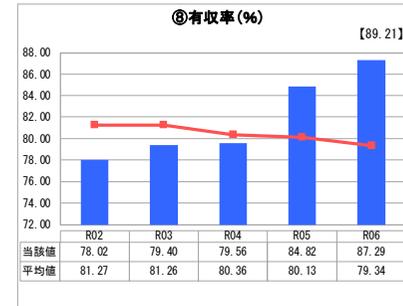
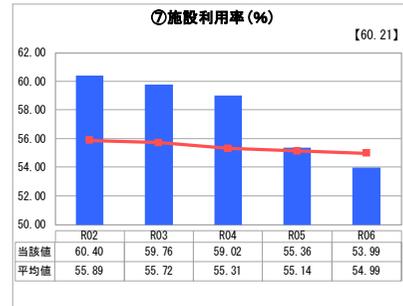
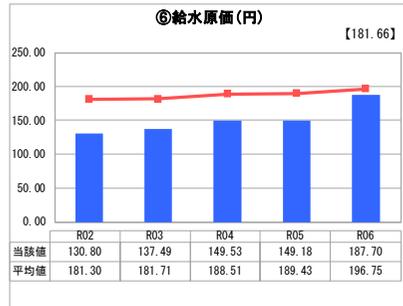
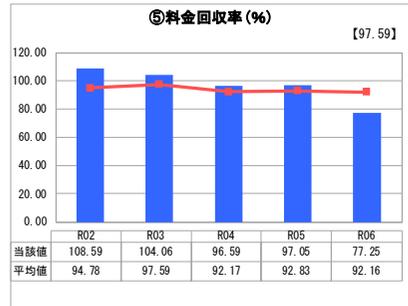
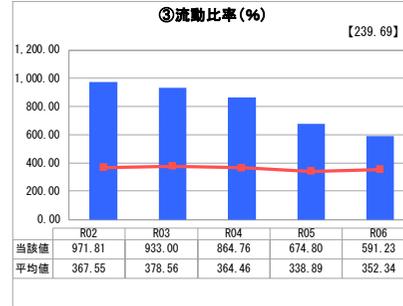
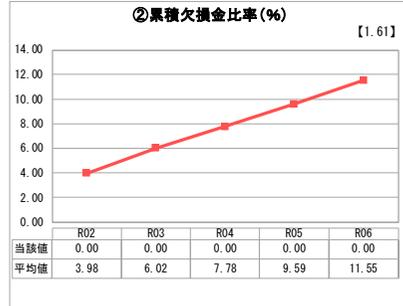
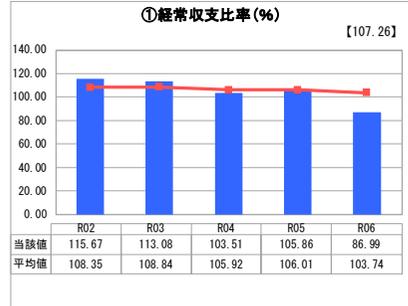
福島県 西郷村

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	79.48	96.80	2,640	

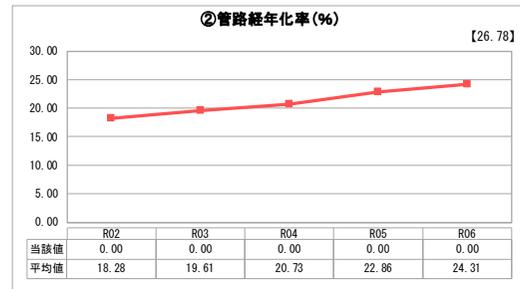
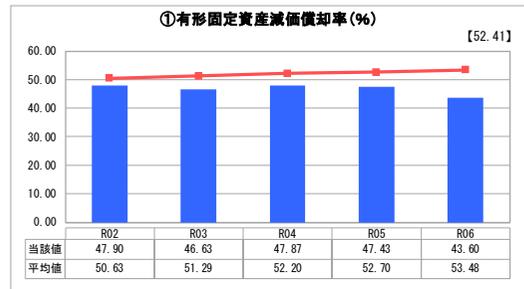
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,616	192.06	107.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,885	66.20	300.38

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：資産の見直しを行った結果、減価償却費等が増加したため赤字となった。今後は見直し後の資産により費用計上することとなるため、それ以外の費用について引き続き削減等見直しを行う必要がある。
- ② 累積欠損金比率：0%のため、今後も引き続き健全経営に努める。
- ③ 流動比率：短期債務に対して十分な支払能力を有していると考えられる水準を大幅に超えて確保しており、短期債務に対する支払能力は概ね良好であるといえる。
- ④ 企業債残高対給水収益比率：類似団体と比べて低いですが、今後も適正な借入に努めていく。
- ⑤ 料金回収率：①経常収支比率記載のとおり、資産見直しに伴う減価償却費等の増により、昨年度と比べ20%程度減少した。令和4年度から100%を下回っていることもあり、料金水準を適正化する必要がある。
- ⑥ 給水原価：昨年度からの上昇理由は、①経常収支比率記載による。まだ類似団体と比べては低いものの、近年上昇傾向にあったこともあり、適正料金の見直しによる収入の確保や費用抑制のための見直しを行っていく必要がある。
- ⑦ 施設利用率：日平均配水量の減により、類似団体を下った。ただし給水人口は微増で、単身等水使用量が少ない世帯が増加していると考えられるため、より効率的な利用となるよう対策を考える必要がある。
- ⑧ 有収率：近年上昇傾向にあり、類似団体平均を上

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：上記①記載のとおり、資産の見直しにより昨年度より減少している。類似団体や全国平均よりは低いため、他の団体と比べて施設全体の経年化の進みは遅い状況にある。
- ② 管路経年化率：③管路更新率：経年管は残存していない状況にあり、今後はアセットマネジメントの結果を基にした計画的な改良、更新を図っていく必要がある。

全体総括

現在の経営状況については、近年の状況からみると給水原価の上昇に伴って料金回収率や経営収支比率が徐々に低下しており、経営状況が悪化しつつある状況にあると言える。

施設の老朽化等に関しては、悪化している傾向は見られないが、人口減少や水需要の減少、今後到来する更新期に備え効果的で効率的な更新を行うなど、将来にわたり持続可能な水道事業の運営の在り方について検討していく必要があると考える。